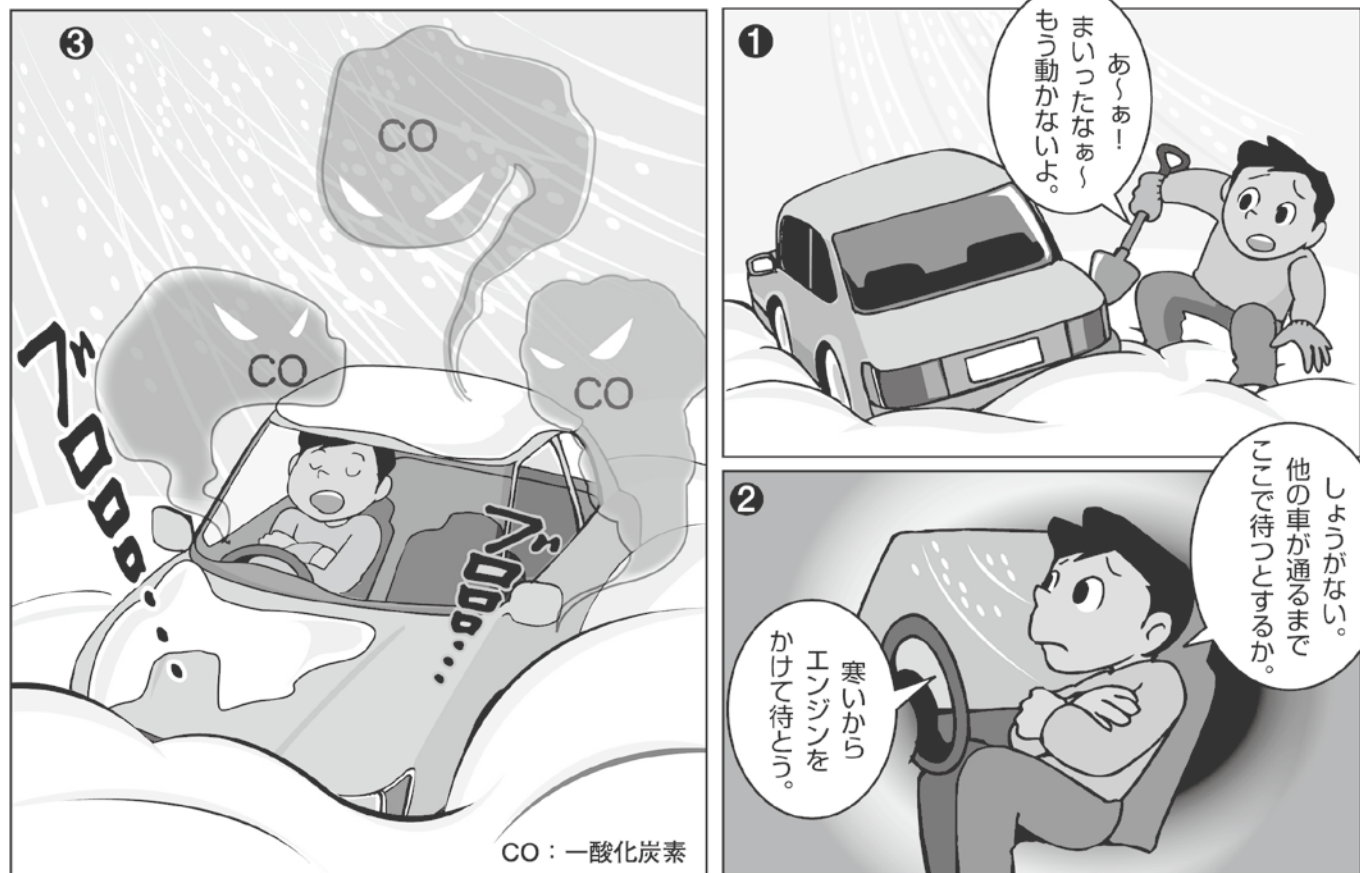


雪に埋もれた車の中は危険です



！ 原則エンジン停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。

！ 一酸化炭素中毒の危険性

車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。

！ エンジンをかけるときは

防寒などやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し、追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。

！ 窓を開けていても絶対安全とは言えません

風向や窓の開度などの条件によっては、窓を開けていても閉めているときより一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。

問い合わせ先／役場総務課情報防災係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 2 (課直通)

暴風雪事故などに備えて

防災ワンポイントコーナー

皆さんも既にご存じのとおり、冬季の本町一帯は、北または北西からの強い風が吹き、国道や道道、町道が地吹雪などにより、通行止めになったり通行が困難になったりします

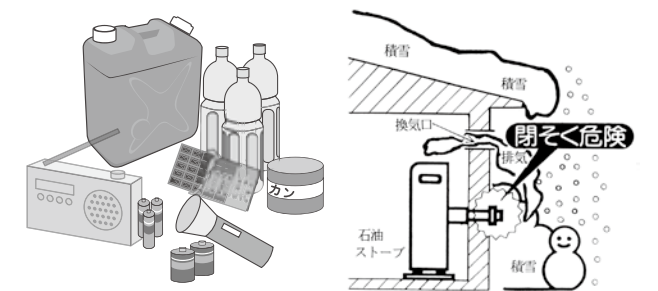
2013年3月には、中標津町で吹雪により5人が死亡するという痛ましい事故が起きました。2014年2月には、本町のほぼ全域で2日間、除雪ができないほどの猛吹雪が続き、停電も相まって地域が孤立するような事態が発生しています。

このような事象は、もはや異常気象とはいえないほど頻繁に発生しているため、常に最悪の事態を想定した準備をしておきましょう。特に、これから3月までは、地震や火山の噴火に加えて、暴風雪に対する備えが必要です。

大雪や暴風雪への対応についてまとめましたので、今後の参考にしてください。

家の中で安全に過ごすために

- ▶ 気象情報に注意して、暴風雪が予想される場合は、外出を控えましょう。
- ▶ 日頃から停電に備え、懐中電灯・携帯ラジオ・防寒具・ポータブルストーブ・灯油・非常食(そのまま食べられる物)・飲料水(1人当たり3ℓ/日)などを準備しておきましょう。
- ▶ FF式暖房機などを使用しているご家庭では、一酸化炭素中毒を防ぐため、給排気口付近が雪でふさがれないように注意しましょう。



車で外出するとき

- ▶ 万が一に備え、携帯電話は必ず所持するとともに、できれば車両電源用充電器も備えましょう。
- ▶ 燃料は常に半分以上あることを確認しておきましょう。ハザードランプなどの電灯の点検も忘れずに。
- ▶ 吹雪によって立ち往生する場合に備えて、次の物をトランクなどに積んでおきましょう。
防寒ジャンパー・帽子・長靴またはスノートレッキングシューズ・防寒手袋・スコップ(角)、けん引ロープ・飲料水(最低1ℓ/人)・非常食(そのまま食べられる物)・できれば使い捨ての携帯トイレ
- ▶ 走行中に地吹雪などで前が見えなくなったら、後部車両からの追突に備え、ハザードランプを点滅させましょう。また、急ブレーキを踏まないようにしましょう。
- ▶ 避難できそうな場所(駐車帯や公園、コンビニエンスストア、人家など)がないときは、消防(119番)、警察(110番)に電話して救助を求めましょう。
- ▶ 雪に埋まったときは、エンジンを切りましょう。マフラーが雪で埋まると、排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす危険性があります。やむを得ずエンジンをかけるときは、時々、窓を開けて換気するとともに、マフラー付近を小まめに除雪しましょう。(左図参照)



除雪を行うとき

- ▶ 屋根の雪下ろしなどではしごを使うときは、必ず複数で行いましょう。
- ▶ やむを得ず1人で除雪をするときには、家族に伝えておきましょう。
- ▶ 屋根から雪を落とす際には、通行人や子どもなどがいないか、周囲に注意しましょう。
- ▶ 除雪機を使用するときは、機械に巻き込まれないよう服装に注意しましょう。
- ▶ 屋根の下を除雪するときは「つらら」と「雪庇(せっぴ=屋根からせり出した雪の塊)」に気をつけましょう。

